豆類原原種ほ栽培管理基準

（制定　　平成２２年４月１日農産第１５２９号
改正　令和２年（2020 年）４月１日農産第５号）

Ⅰ　一般事項

１　異種・異品種種子の混入防止

(1)　種子準備時及びほ場での混入防止

①　種子準備の過程で、他品種等の混入がないように十分注意する。

②　ほ場に落ちた種子は、可能な限り除去する。

③　輪作体系が確立し、豆類が前２か年間栽培されていないほ場であること。

④　作物残渣を材料とした堆厩肥は、それに含まれている種子の発芽能力を喪失させるため十分腐熟させて使用する。

⑤　異品種、異型株、病害株並びに生育不良株等は、早期に抜き取りを完全に行い、ほ場外に搬出して処分する。

⑥　は種機及び収穫機は、品種毎の作業前に清掃を徹底する。

(2)　収穫後の混入防止

①　草本の状態で乾燥する場合は、品種毎の間隔を十分にとること。

②　脱穀調製等の機械器具及び種子の乾燥に使用するシート類は、品種毎の作業前に清掃を徹底して、種子が残っていないことを確認する。

③　脱穀調製等の作業中に種子が飛散し、靴中に入ったり衣服に付着する場合があるので、品種毎の作業前に注意して除去する。

④　種子の包装は、新しい袋を使用する。
　なお、一時的に一度使用したものを利用する場合は、残種子の無いことを十分に確認する。

２　自然交雑の防止

隣接の同一作物のほ場とは、用排水路、畦畔、垣根、裸地等によって区分され十分な距離が確保されているほ場とする。

３　種子の品質低下防止

(1)　ほ場での品質低下防止

①　品質の優れた種子を生産するため、堆厩肥の使用や輪作体系に緑肥作物等を取り入れて地力の維持向上を図り、健全な作物を育てる。

②　栽培は、Ⅱの「種類別の栽培管理基準」に準拠し、純正かつ健全な種子を生産する。

③　ほ場環境を常に清潔にし、収穫時に結実するような雑草は念入りに除去する。

(2)　収穫及びその後の品質低下防止

①　収穫に当たっては、雨湿害のないよう注意し、適期収穫を励行する。

②　収穫物は、脱穀前に十分乾燥させるが、乾燥施設を利用する場合は過乾を避ける。

③　脱穀及び種子調製時における種子の損傷防止に務める。

④　脱穀した種子の乾燥が不十分な場合は、天日や乾燥施設を利用して水分の減少を図るが、乾燥施設を利用する場合は乾燥温度に注意する。

４　原原種生産用種子

原原種生産用の種子は、最新の原原種を使用するとともに、３年に一度配付する「育種家種子」で更新する。なお、原原種生産用の原原種には、品種の特性を保持するため、発芽率および備蓄量を勘案しながら「育種家種子」からの増殖回数が少ない種子を優先的に使用する。

５　種子の備蓄

(1)　貯蔵庫は、必要に応じてくん蒸する。

(2)　種子の水分は、農産物検査法の規定による。

(3)　包装は、紙袋を使用する。

(4)　貯蔵庫への搬入は、大豆は審査終了後、その他の豆類は種子調製後速やかに行う。

(5)　貯蔵条件別の貯蔵期間の目安は、一般的な倉庫の場合１年程度、温度１０℃以下の貯蔵庫の場合５～６年とするが、定期的に発芽力を検定し、発芽力が低下したものは入れ替えを行う。
なお、大豆においては、５℃以下３℃が適切である。

附則

この基準は、平成３年４月１日農改第２号で定めたもの（平成２２年３月３１日廃止）を農産振興課で新たに定め、平成２２年４月１日から施行する。

Ⅱ　種類別の栽培管理基準

項　　目	大　　豆	小　　豆	いんげん	えんどう	まん性いんげん及び花豆
種子の予措	種子消毒：北海道農作物病害虫・雑草防除ガイドを基本とする。				
は　種　期	５月中旬～下旬	５月下旬～ ６月上旬	５月下旬～ ６月上旬	４月下旬～ ５月上旬	５月中旬～ ５月下旬
施　肥　量	北海道施肥ガイドを基本に、地域の実情に応じた適正な施肥を行う。				
栽植密度	10,000 株／10a、１本立			8,000 株／10a、 １本立	3,000 株／10a、 １本立
除　　草	除草剤散布（北海道農作物病害虫・雑草防除ガイドを基本に、地域の実情に応じた適正な除草剤散布を行う。）、手取り１～２回				
中　　耕	カルチベーター２～３回			カルチベーター１～２回	
鳥害防止	出芽期の鳩害防除	－	－	－	－
病害虫防除	北海道農作物病害虫・雑草防除ガイドを基本に、地域の実情に応じた適正な病害虫防除を行う。				
異型株除去	第１回　第一本葉展開期（対象形質：胚軸色、葉形など） 第２回　開花時期（対象形質：草姿、開花の早晩、花色、葉形、毛茸の有無と色、生育状況など） 第３回　成熟期（対象形質：草姿、熟期の早晩、莢色、莢型） 以上の他、菜豆では成熟期に莢に品種特有の斑紋を生ずるものが多いので、その時期に抜き取りを行う。				
病害株除去	随時ほ場を見回り、早期に除去を行う。				
収　　穫	手刈り又はビーンカッター				根切り、手収穫（場合によっては手によるとり）
乾　　燥	地干し→島立て→にお積み もしくは草本ごと通風乾燥			地干し→棒積み又は架がけ	にお積み、屋内通風乾燥など
脱　　穀	ビーンスレッシャー（一般の 70%の回転数）				ビーンスレッシャー（他の豆類より更に回転数をおとす）
調　　製	風選機、粒形選別機による選別を行い、手選りで仕上げる。 （必要に応じて比重選別機及び色彩選別機を用いる。）				